

**私たちは故郷を渡しません。**

**有識者会議は**

**「石木ダム事業は必要も実現性もなし。中止」  
の意見を国交省に出してください。**

2012年2月22日

## **石木ダム建設事業の概要**

事業主体の長崎県が、2級河川である川棚川水系の支流石木川中流域の川原（こうばる）地区に計画した、川棚町と隣接する佐世保市の水源確保、川棚川の洪水調節、流水の正常な機能の維持を目的とした多目的ダム。計画堰堤高55.4m、幅234m、総貯水量548万m<sup>3</sup>。佐世保市へ1日4万m<sup>3</sup>を送水する計画。

ダム建設計画が表面化したのは半世紀前の1962年。1975年に事業採択され、総事業費285億円のうち2007年度までに129億円を支出している。

## **杭は打たれても心に杭は打たせない**

1982年には、土地収用法十一条に基づく強制測量が長崎県により機動隊を導入して行われた。石木ダム建設絶対反対同盟と支援者の強固な反対で、道路と湛水線の杭打ちしか出来ず、たち木伐採を伴う2次測量調査は中止された。

強制測量は、5月21日から6月3日まで7次に渡り行われ機動隊を含め延1000人以上の警察官が動員された。反対同盟は連日老人から子どもまで阻止行動に参加し、機動隊による排除にあいながらも道路に座り込みを続けた。私たちは道路に杭を打たれても心に杭は打たせないと、強い気持ちで戦った。

（朝には杭は無くなっていた、田舎には狸や狐が多い。）

## **同盟の切り崩しによって団結が強まる**

その後、石木ダム建設事業はこう着状態にあったが、1997年賛成者との間に損失補償基準を締結し、移転交渉が始まる。

又、長崎県は裏で反対同盟の切り崩しを行い2002年9世帯の水没地権者の退会者がでた。しかし数は少なくなったが同じ意見を有するもの同士でさらに団結力が強まった。水没地権者13世帯を中心に毎年5月末にホタル祭りを行っているが、町内外から多くの方が見えられ今では川棚町の一大行事となっている。

## **事業認定の欺瞞性**

長崎県は石木ダム建設を2008年7月に、12年度本体工事に着手し、16年度までに完成させる工程表を発表した。しかし地権者が話し合いに応じてくれないと、2009年11月強制収用を見据えた事業認定の申請を九州地方整備局に行った、県は事業認定は、「反対地権者と意見が対立して話し合いが出来ません、事業認定は話し合いのための方法です。」と説明しているが一方では、「話し合いが開始されますと事業に必要な土地の正当な評価を行い適切な移転補償等を提示し、」移転先の土地等の斡

旋に努めてまいります、」

このように事業認定は話し合いを進展させるための方策で、強制収用ではありませんと説明している。

**話し合いとは名ばかり強制収用をちらつかせ移転交渉をする為の事業認定と言っているようなもの。**

私たちは、ダム建設には絶対反対であり移転交渉の話し合いなどありえない、事業認定が認可されると強制収用は避けられない。

(現在まで事業認定に対する審査が中断されている。)

## 県が行った再検証の欺瞞

政権が変わり、国はダムに頼らない治水、利水へ政策を転換し、長崎県へも石木ダム建設事業についてゼロベースからの再検証を求めました。私たちは石木ダム建設の白紙撤回へつながる好機と期待して、地元住民と学識経験者を検証検討の場に参加させるよう再三県に申し入れてきました。しかし県は、県と関係3自治体（佐世保市・川棚町・波佐見町）の長、四者での検討の場とし従来より計画された内容を説明するだけの検証検討の場で終わりました。

幸い私たちが強く申し入れた、長崎県と反対住民、学識経験者入れた公開討論会を開くことが出来ました。京都大学名誉教授の今本先生、水源連の鳴津、遠藤両氏の協力を得て、設定時間を大幅に超える6時間半にも及ぶ討論会となりましたが、県は「反対住民の意見は聞きました」とし、討論会での疑問や意見書は検証さえせず、たった3回の検証検討の場で石木ダム建設継続と決め付け、昨年7月国へ石木ダム建設継続と報告している。

先月長崎県の人口は、25年後には3割近く減少すると報道があった、これだと現在の取水量でも25年後には多くの水が余り、無駄な税金を使ってダムを作る必要はありません。

## 最後に

本日、国の有識者会議で石木ダム建設事業が審議されます。私たちは中止との発表を期待していますが、今までの例を見ますと継続の可能性があります。

継続と決まれば、事業認定の申請も認可の方向へ動き出すものと思います。

しかし私たちは、いかなる結果が出ようとも石木ダム建設絶対反対の気持ちは変わりません。それは、先祖が培ってきた美しい自然、隣人愛あふれる環境を、子、孫、後世へ残していかなければなりません、それが私たちの使命だと思っています。絶対に負けません。

有識者会議は「石木ダム、必要も実現性もなし。中止」の意見を出すのが当然です。

石木ダム建設絶対反対同盟

岩下 和雄